

山口県病院協会 会報

2013 **7月号** No.40

- 発行日 平成25年7月1日
- 発行所 社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



玉木病院

〒758-0071

山口県萩市瓦町1番地

電話 0838-22-0030

FAX 0838-22-0031

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
平成25年度定期総会	3ページ
優良従業員表彰 受賞者一覧	4～5ページ
平成24年度臨時総会	6ページ
協会役員コーナー	7ページ
病院スタッフコーナー	8ページ
諸会議報告・研修会報告	9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



玉木病院
病院長 玉木英樹

玉木病院は、1913年（大正2年）5月10日に曾祖父^{ジョウスケ}玉木亟輔が診療所から玉木病院へと改称して以来、本年で100周年目を迎えました。

萩市の医療の歴史は、1840年（天保11年）9月、藩主毛利敬親公が医学研究所の設立を許されたことから始まりました。後に好生館と改め、1861年（文久元年）2月25日、玉木病院がある瓦町1番地に移転しました。

幕末の激動期には萩絵堂の戦、下関攘夷戦、四境の緒戦に従軍した負傷者や羅災者達を治療し、その功績は多大なものと記録があります。また、1876年（明治9年）の萩の乱（原騒動）には、多数の負傷者の診察治療に従事しました。

現在も、当時の好生館の鬼瓦が長北医療センターの玄関に残存しており、萩市医師会が大切に保管しております。

お陰様で玉木病院の100周年という節目を私の代で迎えることとなりましたが、念願であった新病棟建設も間に合い、昨年10月に無事竣工を迎え、本年5月11日に100周年記念祝賀会を萩市にて開催させて頂きました。

今日この日を迎えることができますのも、ひとえに地域の患者様や皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後も萩北浦の地域医療の充実に、微力ながら努めてまいりたいと思います。旧来に変わらぬご指導、ご支援を頂きますようお願いいたします。

玉木病院の現状

1) 概要

病院長 玉木英樹
診療科 内科・外科・消化器内科・循環器内科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・肛門外科・皮膚科・放射線科・心療内科・リハビリテーション科
病床数 151床
職員数 150人

2) 沿革

1690年（元禄3年）初代烏田智庵正通先生、藩主毛利吉就の侍医就任。
1756年（宝暦6年）2代目烏田智庵貫通先生、毛利家より屋敷を拝領。
1824年（文政7年）4代目烏田智庵通公先生、藩主毛利斎元の侍医就任。
1840年（天保11年）6代目烏田良岱先生、萩藩医学所教授就任。
1879年（明治12年）7代目烏田圭三先生、隣地に御部屋を新築、現在する。
1887年（明治20年）初代玉木英三、烏田家屋敷を同家より譲受。
1913年（大正2年）2代目玉木亟輔、病室2棟を構築し玉木病院へと改称。
1918年（大正7年）2代目玉木亟輔、病院本館を新築、玉木病院の基礎をつくる。
1944年（昭和19年）3代目玉木正夫、戦時中、玉木病院を日本医療団に譲渡。

1951年（昭和26年）3代目玉木正夫、終戦後、玉木病院として復帰。
1965年（昭和40年）3代目玉木正夫、山口県公示により救急指定病院へ。
1966年（昭和41年）3代目玉木正夫、鉄筋病棟及び手術室建築。
1966年（昭和41年）3代目玉木正夫、病床変更施行。（一般病床124床、結核）
1977年（昭和52年）4代目玉木英介、病棟四階建てを建設。
1989年（平成元年）4代目玉木英介、外来病棟、手術室、入院病棟を建築。
1991年（平成3年）4代目玉木英介、病床変更施行。（一般病床159床）
1999年（平成11年）4代目玉木英介、病床変更施行。（一般病床50床、医療療養病床71床、介護療養病床30床、計151床）
2002年（平成14年）5代目玉木英樹、療養病床を増築。
2012年（平成24年）5代目玉木英樹、病床変更施行。（一般病床40床、医療療養病床81床、介護療養病床30床、計151床）
2012年（平成24年）5代目玉木英樹、本館改築。旧烏田家邸宅は多目的室として復元、日本庭園は本館中庭とし残存する。

3) 特徴

「急性期（医の本質としての救急）と慢性期（医の心としての介護）との、全人的医療が病院の原点」を病院業務理念として、一般病床40床、医療療養病床81床、介護療養病床30床のケアミックスで運営しています。

平成25年度 定期総会開催

日時 平成25年5月23日（木） 15：00～16：15

場所 山口市小郡黄金町1番1号

山口グランドホテル 孔雀の間



開会

天津昇次事務局長より開会宣言がなされ、木下毅会長の開会挨拶が行われた後、来賓の山本繁太郎山口県知事（代理 山口県副知事藤部秀則氏）、柳居俊学山口県議会議長（代理 県議会環境福祉委員長友広巖氏）、小田悦郎山口県医師会長（代理 山口県医師会副会長吉本正博氏）、よりそれぞれ祝辞が述べられた。



藤部秀則氏

友広 巖氏

吉本正博氏

次いで、病院優良従業員の表彰状授与式が行われ、受賞者69名を代表して岩国市医療センター医師会病院の木村清治氏に表彰状と記念品が授与された。



木村清治氏

総会成立宣言

審議に先立ち、木下毅議長より、総会出席者は当協会の会員総数138名に対して110名（うち委任状69名）の出席があり、定足数を満たしており、総会が有効に成立する旨宣言された。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、防府胃腸病院三浦理事長並びに三田尻病院神徳理事長を選出した。

議案審議

○議案第1号

「平成24年度事業報告及び収支決算について」

天津事務局長より、平成24年度に実施した各種事業内容について詳細な説明と報告がなされた。さらに、平成24年度における当協会の収支決算状況について、収支計算書に基づき詳細な説明、報告があり、続いて湧田監事より平成24年度の事業並びに決算関係資料について、尾中監事、田村監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適切に処理されている旨監査報告が行われ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

昨年までは第2号議案として提案されていた次年度の事業計画及び収支予算は、新公益法人移行への手続き上25年3月開催の臨時総会で、すでに制定済みであるために、この度は第1号議案の上程となった旨、報告があった。

議案審議終了

木下毅議長より、議案はすべて承認されたことを告げ、全員に議事の進行の協力に対する感謝の意を述べ議事を終了する旨を宣告された。

閉会

三浦副会長よりすべての日程が終了したことを宣言し、平成25年度山口県病院協会定期総会はとどこおりに終了した。

◎ 特別講演

定期総会終了後、兵庫県立大学経営研究科教授小山秀夫氏の特別講演「社会保障制度改革と病院経営」が行われ、57名の参加者が熱心に耳を傾けていた。

講演では、社会保障制度改革が進められる中、医療・介護の世界でのIntegrated Care（統合ケア 言い換えれば地域包括ケア）の重要性が述べられた。今後も医療機関の機能分化を推進し、在宅医療を含めた水平的統合が早期に図られるべきと強調された。小山氏は元々、老人保健施設や訪問看護ステーションなど高齢者ケアの課題に造詣が深く、今回の講演も慢性期医療に光を当てた内容であった。



小山秀夫氏



講演風景

受賞おめでとうございます

平成25年度 病院優良従業員表彰 受賞者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 同 仁 病 院	病 棟 介 護 職	草 賀 富 美 子
〃	病 棟 准 看 護 師	筒 井 裕 子
岩 国 市 医 療 セ ン タ ー 医 師 会 病 院	医 事 課 主 任	木 村 清 治
岩 国 病 院	病 棟 看 護 師 長	堀 本 真 由 美
宇 部 記 念 病 院	放 射 線 室 科 長	河 野 光 弘
〃	准 看 護 師	山 本 ま ゆ み
宇 部 興 産 株 式 会 社 中 央 病 院	看 護 師 長	石 井 邦 子
〃	医 療 安 全 室 室 長	山 村 恵 子
宇 部 第 一 病 院	管 理 課 主 任	笠 井 洋
〃	准 看 護 師	前 田 千 津 子
宇 部 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	介 護 職 員	村 田 弘 子
江 藤 病 院	准 看 護 師	橋 本 由 美
大 田 病 院	管 理 栄 養 士 主 任	福 永 万 由 美
〃	事 務 次 長	森 川 雅 嗣
岡 田 病 院	准 看 護 師	仙 田 夏 枝
〃	看 護 師	野 村 ユ ミ 子
岡 病 院	看 護 師	高 野 美 鈴
〃	看 護 師	原 田 良 子
小 郡 ま き は ら 病 院	准 看 護 師	田 中 奈 保 美
〃	准 看 護 師	三 嶋 栄 二
尾 中 病 院	薬 剤 師	石 川 麻 由 美
〃	事 務 職	森 木 智 女
小 野 田 心 和 園	看 護 師	盛 重 康 雄
織 島 病 院	看 護 師	芝 原 一 美
〃	看 護 師	林 と よ 美
鹿 野 博 愛 病 院	介 護 福 祉 士	大 田 つ ぼ み
〃	看 護 師	国 武 妙 子
吉 南 病 院	臨 床 検 査 技 師	上 田 久 仁 子
〃	薬 局 長	松 澤 豊
光 風 園 病 院	副 看 護 部 長	梅 崎 亜 希 子
〃	総 務 部 長	高 田 和 土
坂 本 病 院	准 看 護 師	高 木 村 恵 子
〃	介 護 職 員	中 野 春 子
佐 々 木 外 科 病 院	看 護 師 主 任	杉 山 真 由 美
重 本 病 院	准 看 護 師	平 井 多 都 子
〃	看 護 補 助 者	村 田 ひ ふ み

病 院 名	役 職	姓 名
周南リハビリテーション病院	介 護 士	溝 谷 悦 子
〃	衛 生 課 主 任	山 崎 京 子
昭 和 病 院	放 射 線 技 師 主 任	田 宮 千 春
〃	作 業 療 法 士 課 長	矢 頭 真
セ ン ト ヒ ル 病 院	看 護 師	石 部 由 美 子
桑 陽 病 院	医 事 課 主 任	田 中 美 智 子
〃	医 師 副 院 長	三 村 寛
都 志 見 病 院	准 看 護 師	上 田 美 和 子
徳 山 医 師 会 病 院	看 護 助 手	石 澤 良 子
〃	看 護 助 手	沢 野 道 子
徳山リハビリテーション病院	看 護 師 長	中 村 小 夜 子
〃	地 域 連 携 部 主 任	柳 敦 子
仁 保 病 院	秘 書 室 長	河 原 潔
〃	保 育 員	田 原 朝 子
稗 田 病 院	看 護 補 助 者	吉 村 美 枝 子
光 中 央 病 院	調 理 員	徳 浪 常 子
福 永 病 院	准 看 護 師	上 田 恵 子
〃	准 看 護 師	三 本 松 由 美 子
防 府 病 院	看 護 師 病 棟 課 長	井 上 和 子
三 田 尻 病 院	看 護 師	上 田 恵 子
〃	看 護 師 主 任	波 野 重 寿 香
み ど り 病 院	准 看 護 師	金 本 由 利 子
〃	准 看 護 師	中 村 恵 美 子
桃 崎 病 院	病 棟 看 護 主 任	松 尾 美 穂 学
〃	病 棟 看 護 主 任	森 川 佳 代 子
森 山 病 院	薬 剤 師	小 車 玲 子
〃	介 護 主 任	中 北 和 子
安 岡 病 院	介 護 職 員	川 村 美 緒 子
〃	薬 局 長	花 谷 洋 一
山口大学医学部附属病院	視 能 訓 練 士	佐 藤 三 代 子
〃	副 看 護 師 長	村 田 志 津 恵 子
湯 野 温 泉 病 院	准 看 護 師	岡 島 佳 子
〃	リ ハ ビ リ 助 手	村 中 佳 子

受賞者人数 69名

平成24年度 臨時総会開催

平成24年度臨時総会が、平成25年3月28日（木）新山口ターミナルホテルにおいて、会員118名（委任状出席を含む）出席のもと開催、任期満了に伴う役員改選について審議された。

議長より、先に選挙告知により立候補及び推薦をお願いした結果、16名の立候補があり、定数の範囲内であることより候補者全員が当選するとの報告があり、審議の結果全員当選が決定した。

臨時総会は一旦休憩となり、ただちに開催された新理事会において、会長・副会長・常任理事・並びに監事が選任され、その後、再開された臨時総会で報告があり、それぞれ承認された。

新役員は下記のとおり。

会 長	木下 毅（光風園病院）	常任理事	内山 哲史
副 会 長	三浦 修（防府胃腸病院）		（岩国市医療センター医師会病院）
〃	水田 英司（小野田赤十字病院）	〃	玉木 英樹（玉木病院）
常任理事	吉田 延（大田病院）	〃	西田 一也（阿知須同仁病院）
〃	佐柳 進（関門医療センター）	理 事	林田 重昭（徳山中央病院）
〃	神徳 眞也（三田尻病院）	〃	名西 史夫（山口赤十字病院）
〃	守田 知明（周東総合病院）	〃	福本 陽平（宇部興産(株)中央病院）
〃	高橋 幹治（片倉病院）	監 事	湧田 幸雄（済生会山口総合病院）
〃	竹重 元寛（周南記念病院）	〃	尾中 宇蘭（尾中病院）
〃	瀧原 博史（山陽小野田市民病院）	〃	田村 滋規（田村税理士事務所）

また、顧問については、次の各位を選任することが報告された。

顧 問	西田 健一（阿知須同仁病院 会長）……………再任
同	江里 健輔（山口県立大学 学長）……………再任
同	貞國 耀（仁保病院 理事長）……………再任
同	小田 裕胤（新南陽市民病院 名誉院長）…新任



尚、社団法人山口県病院協会役員業務分担は以下のとおりである。

総括	委員会	委員長	委 員
木下 会 長	総務	水田 英司	吉田 延・高橋 幹治・内山 哲史・福本 陽平
	学術・法制	三浦 修	神徳 眞也・竹重 元寛・玉木 英樹・名西 史夫
	地域医療	佐柳 進	守田 知明・瀧原 博史・西田 一也・林田 重昭
	情報管理	水田 英司	瀧原 博史・名西 史夫・福本 陽平

協会役員コーナー

「かく有りたいたいと思う」



医療法人 愛命会
大田病院

理事長 吉田 延

不景気な時は、心の中まで暗くなっていたが、安倍総理になりまだ半年ではあるが、アベノミクスという果敢な戦略により経済は明るい兆しが見え初めて、沈みかけた日本の再生が始まった。

我々病院経営に携わる管理者もただ生き残るためだけでなく、さらなる発展をしていくためにも、国の方針・方向性を見誤らないようにその施策を検討し対応していくことが大切である。そのためには、他の医療機関や施設との連携を保ちながらも病院の特性を生かし、患者様や患者家族様から選ばれる地域に根ざした開かれた病院を築いていくことが重要である。また、業務や接遇はもとより人間性の教育に重点を置きながら、優れたリーダーシップを執れる有能な職員の育成が不可欠である。適材適所に有能な人材を配置し、横の連携を密にしたチーム医療により、早期退院、社会生活化を進めることである。

組織としては、経営者の理念や経営方針が明確に伝達され、組織一丸となって機能していくことが肝要である。そのためには組織内の人と人との和を計り風通しの良い環境づくりが、患者様の人格を尊重した素晴らしい接遇へと繋がっていくものと思う。

組織の長たるものは常日頃から自己研鑽にはげみ、職員から信頼され尊敬にされる存在でなければならない。私もそういった人間となれるよう願っている。

医師のネクタイ



総合病院山口赤十字病院
病院長 名西 史夫

暑い夏が巡ってきました。

卒業して研修医になった時、同期生はそろってネクタイを着用していましたが、夏が来た頃にはもう誰もネクタイをしていませんでした。30歳を過ぎて再び大学の臨床教室に戻ると、研究室主任は米国で臨床トレーニングを受けた先生で、患者さんに敬意を表するためにネクタイを着用すべきだと教えられました。1980年代後半、米国の病院で過ごした時も、やはり男性医師は研修医に至るまで、すべてネクタイを着用するか、あるいは丸首の白衣を着て仕事をしていました。さて、今の病院はどうでしょうか。当院の医師でネクタイを着用しているのは、最も患者さんと触れ合う機会の少ない私だけになりました。

2007年、英国から医療行為関連感染を減らすためのガイドラインが発表されました。

その中に、医療従事者は感染拡大を最小限に抑える衣類を着用し、頻繁に洗濯することの項目があり、具体的に、ネクタイなど機能の無いものは着用しないことと記載されています。ネクタイは患者さんの診療に何の役にも立たないだけでなく、洗濯される頻度が少なく細菌の温床になると、すっかり悪者にされたようです。看護師さんのナースキャップも同様な理由から最近は見なくなりました。

ガイドラインには、患者さんのケアの際は半袖の衣服を着用し、長袖の白衣は避けることと書かれています。袖口は患者さんと接触する頻度が高く、細菌の温床になりやすいからだそうです。ノーネクタイで半袖の白衣は涼しく、省エネにもつながりそうです。

病院スタッフコーナー

精神科病院における内科疾患の治療



医療法人恵愛会柳井病院
糖尿病代謝内分泌内科部長

土谷 昌信

医療法人恵愛会柳井病院は瀬戸内海を見下ろす風光明媚な高台にあり、精神神経科を中心とする298床を有する病院です。その中で内科は常勤医2名、非常勤医1名の体制で外来および入院患者さんの治療にあたっています。

当院では麻痺性イレウスや悪性症候群など精神科に特有な疾患のほか、患者さんの高齢化や認知症に起因する誤嚥性肺炎や尿路感染症などの疾患が多く見受けられます。しかしながらこれらの疾患の治療において、精神症状により身体所見がマスクされてしまうことがあり、また患者さんの症状の訴えも不明瞭なことが多く診断に苦慮することも稀ではありません。また重症化しても精神症状への対応が難しいため他院への転院が困難な場合もあります。

またそれ以上に精神科病院では、糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症そしてメタボリックシンドロームを中心とする慢性的な内科疾患を有する患者さんが急激に増加しています。外来での精神科患者さんの食事指導は困難なことが多く、厳格な食事指導がかえって精神的に不安定にしてしまい病状を悪化させることがあるため慎重な指導が必要とされます。また内服も不規則となることが多く、内服薬の処方に関しては、投与回数、タイミングに他科以上に気を使っています。

精神科病院においても患者さんの高齢化は急速に進んでおり、今後とも内科医として患者さんの気持ちに寄り添った内科疾患の管理・治療をすすめていきたいと考えています。

看護部長改め、医療連携室長に就任しました



医療法人愛の会
光風園病院
地域医療連携室長

中尾 郁子

当院は長府駅の山手、瀬戸内海を一望できる高台に位置しています。

病床数は、58床の回復期リハビリテーション病棟をはじめ、医療療養病棟、特殊疾患病棟、介護療養型医療施設の210床です。

私は、昭和54年に当時結核療養所であった当院に看護学生として入職、以来准看護師、看護師として臨床経験をへた後、平成4年に看護部長に就任し、高齢者医療、ケアの質の向上を目指すことはもとより、病院の進化発展に向け微力ながら邁進してまいりました。

「障害の有無にかかわらず、その人らしい当たり前の生活を再建する」

「身体拘束廃止」「アメニティの充実」「職種間の連携・チーム医療の推進」など、光風園病院が今ある姿になるまでの歩みと共に、刻んだ時を振り返ると、これまでの一日一日が本当に有意義で価値の高い年月だったと、感慨にふける毎日です。

さて、今年4月、私は21年務めた看護部長を退任し、法人本部看護統括部長に就任すると共に、新しい病院機能として設置した地域医療連携部で地域医療連携室長を務めることになりました。今年12月には新築の回復期リハビリテーション病棟が完成予定です。入院依頼をスムーズにお受けできるように、また、地域の皆さんに選んでいただき満足していただける病院になれるように、尚一層の努力をしていきたいと思います。新病棟完成後には、既存の病棟も順次改装していく予定です。是非一度、見学にいらしてください。

諸会議報告

平成25年度 第1回理事会・第1回常任理事会

日時 平成25年4月26日（金）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【議決事項】

議案第1号 平成25年度定期総会提出議題について

- ① 平成24年度事業報告及び収支決算について

【承認事項】

- 1) 定期総会時における病院優良従業員表彰受賞者の決定について

【協議事項】

- 1) 行政委員等の分担について
- 2) 業務委員会の構成について
- 3) 病院協会報の発行部数について
- 4) 平成25年度医療懇話会について
- 5) 夏季医療経営講習会について

【報告事項】

- 1) 県行政委員等の推薦について
- ・日本医療機能評価機構事業推進協議会委員
常任理事 神徳 真也（再任）

- ・日本医療機能評価機構事業推進協議会副委員
常任理事 西田 一也（再任）
 - ・山口県新型インフルエンザ対策協議会委員
常任理事 瀧原 博史（新任）
 - ・山口県男女共同参画推進連絡協議会委員
副会長 水田 英司（新任）
 - ・山口県医療費適正化計画推進協議会委員
副会長 水田 英司（再任）
- 2) 県各種委員会等の結果報告について
木下会長
- ・山口県医療対策協議会（3月29日）
天津事務局長
 - ・山口県予防保険協会評議員会（3月27日）

平成25年度 第1回情報管理委員会

日時 平成25年6月14日（金）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 7月号の発行について
2. 10月号の発行準備について

研修会報告

平成25年度山口県病院初級職員研修会

平成25年6月18日（火）山口県総合保健会館第1研修室において、平成25年度山口県病院初級職員研修会が開催され、208名の参加があった。

病院協会の天津事務局長は、山口県の病院の概況を全国と比較しながら説明した。

続いて、株式会社エバルスの宮村氏から、社会人としての基本となる挨拶や、医療人としての基本マナーをロールプレイングを交えながら講演された。今年採用された職員を中心とした研修会であり、日常業務の中で経験する事柄も多く、「患者様から見た良い病院」「医療機関に対するクレーム増加の理由」「接遇の6原則」「(じんざい)の4つの分類」を内容とする話に、参加者は熱心に耳をかたむけた。

研修会

テーマ 「山口県の病院の概況」

講師 山口県病院協会
事務局長 天津 昇次

テーマ 「接遇の心と形…医療人として、社会人としての基本マナー」

講師 株式会社 エバルス
薬事情報室営業支援グループ 宮村 京子氏



宮村京子氏



研修会風景

お知らせコーナー

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

6月16日、山口県病院協会より推薦した5名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

- 岡村 美智子（福永病院）
 小坂 まり子（山口大学医学部附属病院）
 寶谷 伸枝（防府保養院）
 中村 静枝（岩国病院）
 森山 博司（岩国市医療センター医師会病院）



左より受賞者 岡村、小坂、寶谷、中村、森山の各氏

会員病院の退会

- 株式会社日立製作所笠戸事業所付属日立病院

会員病院の入会

- 医療法人緑山会 下松中央病院 病院長 古林 洋三

会員等の異動

会員の変更

- | | | |
|-----------------|---------------|------------|
| ・山口大学医学部附属病院 | 病院長 田口 敏彦（変更前 | 病院長 岡 正朗 |
| ・周南市立新南陽市民病院 | 病院長 松谷 朗（変更前 | 名誉院長 小田 裕胤 |
| ・宇部仁心会病院 | 病院長 松本 奉（変更前 | 理事長 南園 忠 |
| ・サンポプラ病院 | 理事長 南園 忠（変更前 | 病院長 丸本 多 |
| ・宇部西リハビリテーション病院 | 病院長 梶原 浩司（変更前 | 病院長 原田 俊則 |

病院協会の主な行事予定

- 7月4日 事務長部会研修会（会長：山口グランドホテル）
- 7月5日 常任理事会（会場：新山口ターミナルホテル）
- 9月3日 栄養関係職員研修会（会場：山口県総合保健会館）

病院協会事務局の人事異動

- ・4月3日 死亡退職
事務局次長 小野 哲也
- ・6月3日 採用
事務局次長 磯村 裕昭
宜しくお願い致します。



編集後記

最近、老人ホームなどの施設に入所している高齢者の急変で、もはや医療の適応というより、看取りの段階ではないかということがしばしば議論になっています。北欧の国々（ノルウェー、スウェーデンなど）では、いわゆる寝たきりの老人はいないという話を耳にします。その理由は、高齢者あるいはガンなどで終末期を迎え、口から物が食べられなくなると、胃ろうや点滴などで延命を図らないとのことでした。さらに、そのことを国民のみんなが理解しているというのです。また、米国でも、大きな意味で“老衰”は、老化とそれに伴う合併症による“FTT; failure to thrive（生存することの消滅）”であると言われていています。超高齢化社会を迎えたわが国でも、FTTの考えが広まることを期待します。
 （福本陽平）